

シリーズ

公共施設 大量更新問題



第2回「公共施設はどれくらいあるの」

1



市の公共施設って
どれくらいあるの？

本市の公共施設のうち建築物系施設の延べ床面積の合計は、100.6万㎡（東京ドームの面積に換算すると22個分）です。市民一人当たりの面積は3.23㎡で、これは全国平均の3.42㎡とほぼ同等の数値です。小・中学校60校、市営住宅26団地をはじめ、スポーツ施設などたくさんの施設があります。

2



どういう施設が多いの？

小・中学校などの学校教育施設が42.6万㎡で最も多く、全体の42.4%を占めています。次に市営住宅が15.1万㎡で15.1%となっており、これらで約6割を占めています。

そのほか、文化会館など市民文化系施設が6.4万㎡（6.4%）、四日市ドームなどスポーツ・レクリエーション系施設が5.7万㎡（5.7%）、市立四日市病院など医療系施設が5.2万㎡（5.1%）と続いています。

【前回のおさらい】

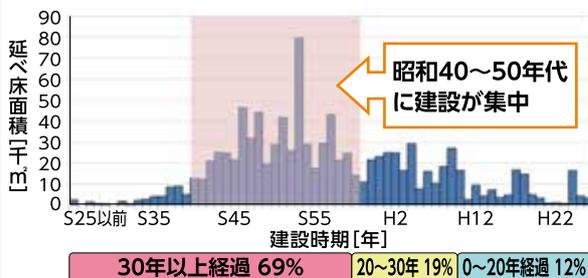
本市が持つ公共施設は、老朽化が進んでおり、今後、維持管理や建て替えに多額の費用が必要となります。この問題に取り組むために、市では「四日市市公共施設等総合管理計画」をつくりました。これは、必要な行政サービスを維持することを前提に、施設の長寿命化や転用、集約化を行うことにより、施設にかかるコストの縮減を目指していく計画です。

3



いつごろ造られた
施設が多いの？

高度経済成長期である昭和40年代から昭和50年代にかけて建設が集中しています。これらの施設は建設後30年以上が経過しており、今後、次々と改修や建て替えの時期を迎えます。



4



道路や下水道は
どうなっているの？

道路や橋、公園、上下水道などの「都市基盤（インフラ）施設」もこれまで多数整備してきました。これらも維持管理に加えて、改修・更新が必要であり、多額の費用が必要となります。

まとめ



これから、改修や建て替えが必要な公共施設が増えることは避けられません。限られた予算での公共施設の管理が課題となっています。

次回は、9月上旬号で、公共施設を維持するための「費用」についてお伝えします。

問い合わせ先

管財課

(☎354-8288 FAX359-0275)

有料広告掲載欄

建設職人なら誰でも入れる組合です



建労

随時加入者
募集中

四日市支部

三建国保

組合独自の
建設労働者の
健康保険

出産育児一時金（42万円）
葬祭費（本人10万円・家族7万円）
高額療養費、無料健康診断の開催
人間ドックに対する補助（3万3千円）
脳ドックに対する補助（2万円）など

三重県建設労働組合四日市支部 四日市市ときわ5丁目1-8 ☎(059)354-1531(代)

本欄は広告であり、広告の内容に関する一切の責任は広告主に帰属します。